



「政治家の仕事は未来を創ること」

2007年の初当選以来「社会を少しでも良い方向に変える」との想いで活動してきました。成果があったこともあれば、挫折を味わった事も多々ありました。4期目の議席を預かった4年間は、1511回の議会質疑*1や企業・研究者との勉強会を主催、各都市の先行事例等を調査しました。「ヨコハマの未来」と題した物語は1年後から20年後までをイメージして山下が思い描く近未来ストーリーです。

*1議会公式議事録より検索。(R1.5/1~R4.11/30)

この未来を一緒に作っていきませんか?

1 ZEROカーボン

Action~私の活動

2021年 5月: 再エネ条例を制定
 2022年10月: 議会にて、初めて「ペロブスカイト太陽電池」の実証を提案
 民間企業・行政の研究会を主導



ヨコハマの未来

親父が「日本は資源がないので、海外で紛争等が起きる度に電気代が上がって大変だったんだ」と言っていたが、コウタはピンときていない。何故なら、2033年の横浜では電気は地産地消が主流になっているからだ。今日もバイトにはペロブスカイト電池のアシスト自転車で行く。蛍光灯でも発電できるペロブスカイト電池は今や、家電製品のあらゆる物に使われている。自宅の電気はゴミ発電の電力など、地域調達のグリーン電力が主流だ。地域電力のAOBA電力は、各々の家庭で生み出した電力を互いに融通することで、廉価で安定的な電力網を地域に作った。本社をたまプラーザの社宅跡地に建設して、地域の雇用にも貢献している。おかげで、地元商店街も地域電力の社員が多く利用するので、賑わいが生まれている。



なぜ、再エネなの?

脱炭素政策は温暖化対策だけでなく、電力の地産地消により、エネルギー消費が地域経済に寄与する事を考えています。また、再エネ・省エネに関連する新しい技術がスタートアップ企業を生み出し、若い世代にもチャンスをもたらす社会にしたいと考えます。

2 医療DX

Action~私の活動

医療DXを成人病の予防政策に提案
 議会で2019年から毎年、本会議の質疑で提案する
 医療関係者と認知症対策について勉強会を開始



ヨコハマの未来

シンジは目の前の文字に目が点になった。先日、50歳を契機に受けた横浜市の健康診断の結果には「今の生活を続けると、10年後に人工透析を受ける可能性が50%。15年後は78%。」と記されている。仕事の忙しさを理由に健康に向き合ってきたツケが来たのだらう。しかし、次のページに書かれている横浜市のフォローメニューを見て一安心した。近くのケアプラザの月に一度の保健指導を受ければ、リスクは20%以下になると書いてある。2025年より始まった横浜市の健康長寿政策は、ビッグデータと健康診断の数値を解析することで、成人病の発症リスク低下に大きな成果を出している。また、来年からは、外出困難な高齢者の為に、スマホで歯の写真を送れば、認知症のリスクを測れるサービスも始まる。歯科医師会とも連携しているので、高齢者の歯周病による認知症は激減するだろう。

なぜ、医療DXなの?

個人を限定しないビッグデータを使うことで、同年代の方の10-20年後の疾病予想が可能になります。正確性を期す為に大学との共同研究も始まっています。医療が未然予防の時代に入れば、高齢化社会において悪化する健康保健会計の改善にも寄与できます。



3 MaaS(次世代の地域交通)

Action~私の活動

MaaSの議論を議会で行う(2022.02.10/22等)
 青葉区新石川の自治会関係者と相談して地域交通の実証実験を開始

ヨコハマの未来

1974年に始まった敬老バスは当時7万人の利用者が、40万人を超えて財政を圧迫していた。今から10数年前には継続か廃止か?なぜ高齢者だけ?などと世を分断する議論がなされていたらしい。ナミは手にしたスマホのMaaSアプリを見ながら、昨夜両親に聞いた昔話を思い出していた。学生のナミは地下鉄とバス、駅までのシェアサイクルを使えるコースを選択しているので、月3,000円と格安である。もちろん学割も効く。一方、同居している祖母は乗合タクシーも使えるコースを選択しているが、5,000円で済むという。祖母のMaaSが一般の利用者より割安になっているのは敬老バス事業の補助が入っているからだ。ナミはMaaSが運用されて街に元気なお年寄りが増えたと感じている。そして、同じシステムを利用しているので、世代間の不公平感が解消されたと感じている。



なぜ、MaaS(マース)なの?

シェアサイクルや電動キックボード、乗合タクシー等、様々な移動手段を増やしていく。そして、それらを含めた公共交通機関を高齢者も若者も皆が同じアプリで使う。MaaSを導入すれば持続性・公平性が担保された地域交通が出来ます。また、公共交通機関の充実が地球環境にも貢献します。

4 eスポーツ

Action~私の活動

eスポーツを特別委員会で議題に(2022年度健康スポーツ特別委員会)
 2018年より13回にわたり、議会でもeスポーツの提言を続ける。
 横浜初のプロeスポーツチームと意見交換会を行う(自民党有志にて)

ヨコハマの未来

中学時代のリクは4番でエースだった。高一の時に交通事故で車椅子になってしまい、暫くは、ショックで高校も不登校気味になっていた。高2のある日、横浜市がeスポーツの高校生選抜を募集するとの記事が目にとまり応募した。種目は野球ゲーム。野球ゲームには自信があり、仲間同士では負け知らずだ。当時の横浜市はパシフィコでeスポーツの世界大会を開催したことを契機に、福祉分野でもeスポーツを活用するようになった。パシフィコ大会には世界各国から選手や観客が多数集まる。今や横浜はeスポーツの聖地になっている。現在のリクはベ이스ターズのエースだ。プロ野球各チームもeスポーツチームがあり、2025年はハマスタとパシフィコどちらもベースターズがダブル優勝を飾りそうだ。明日はチームのボランティア活動で施設のお年寄りや太鼓の達人で勝負する。野球は強いが、太鼓はいつも負かされるので少し悔しい。



なぜ、eスポーツなの?

eスポーツの市場規模は国内で100億円を超え、世界では16億ドルを超えています。横浜でeスポーツの大会が盛んになれば、横浜市の観光等に大きな経済効果が得られます。また、eスポーツは障害者も高齢者も真のバリアフリーで対戦できます。高齢者施設では運動機能の維持に対戦型ゲームを活用して、孫世代と楽しみ、競争しながら健康の維持を図って欲しいと思います。

政治家の仕事は未来を創ること

▶ 2023年

マニフェスト大賞最優秀賞



日本最大の政策コンテストです。

私がプロジェクトの座長として、よこはま民主党主導で脱炭素条例の制定を実現しました。再エネ条例を制定したのち、条例を具体的政策につなげる為のアイデアを市民参加型で行いました。コロナ禍なので、Decidimというバルセロナ発のプラットフォームを活用して、Web上で双方向の意見交換をする場を設け、採用した意見を実際に政策に反映できるように議会で取り上げました。この内容が高く評価をされ、全国3,133件の応募の中からグランプリを獲得しました。



▲審査委員長の北川正恭氏と

大学生インターン活動

毎年、春・夏休みの期間に大学生のインターン生を受け入れています。

大学生達は公務員志望が多く、市議員に同行することで、行政の仕事を俯瞰的に見たいと考えているようです。私は政治の目利きを持ってもらいたいと考えて受け入れています。いよいよ、統一地方選挙が始まります。ポスターやイメージで1票を投じるのではなく、政治家の普段の活動をチェックするように指導しています。一人ひとりの政策の優先度は違います。自分に合った政策を語る人、言うだけでなく、実行に移す努力をしているか？大学生なりに自分の物差しを持てれば、インターン活動は合格です。



Z世代のあなたへ



「最近の若者は物欲がないよね。私の若い時はとにかく車が欲しかった。」と言った時に、ある方が「何言ってるのよ。諦めているのよ」と言われ、ハッと気づきました。

35年前の私の初任給は186,000円でした。35年前から3~4万円しか増えていません。

一方で、車の値段は100万円くらい上がりました。

欲しくても買えない現実に「欲しくない、必要ない」と言わざるを得ない若者が増えている事に大人として、一人の政治家として、この様な社会になった事を恥じています。

あなたのお祖父さん達の時代は、自動車、電気製品などが世界を席卷し、給与が年々増える高度経済成長といわれた社会でした。

もう一度、「強い経済を取り戻す」。その想いで社会の変革を促していきます。

ZEROカーボンや医療DXなど社会のルールが変わる変革期は、新しい産業が生まれるチャンスでもあります。

160年前の開国の地、横浜は新しいことを始める進取の精神に溢れています。

横浜から強い経済を作る。新しい産業のチャンスを創る。

その為の土台作りに取り組んでいます。

若い世代の皆さんに横浜でチャレンジして欲しい。君達のチャレンジをサポートします。



横浜市議員 山下正人

- 1964年 8月生まれ 京都市出身
- 1988年 同志社大学商学部卒業
- 1988年 セコム株式会社入社
- 1994年 ソニー生命に転職
- 2007年 横浜市議員初当選
以来4期連続当選
- 2021年 自民党横浜市支部連合会 幹事長



まずは、経済！

コロナで痛んだ経済を立て直す。福祉も医療も土台となる財源が無いと政策は前に進みません。限られた財源を有益に使うことは勿論ですが、税収が増える政策も考えていかねばなりません。

eスポーツもこの視点で取り組んできました。eスポーツを初めて取り上げた4年前、誰も反応しなかった事を覚えています。今でも誤解を受けることがあります。私はゲーム好きではないが、将来的な成長産業に育つとひらめき、推進役の旗を振って来ました。

新横浜をベースにするプロチームも生まれました。「eスポーツが横浜経済に寄与する、福祉事業にも効果がある。」と考えて活動してきました。

未来への責任。実行力で進めます！



満員電車よサヨウナラ。

会社員時代に満員電車の苦悩を味わった一人として、職住近接の働き方は私の夢です。

たまブラザーの郵政社宅の跡地の土地の公募入札が始まります。マンション適地のこの土地を多くのデベロッパーが狙っています。この流れに抵抗すべく、商業(企業立地)用の計画であれば、建物の容積率を250%までUPできる誘導政策を盛り込みました。たまブラの郵政跡地に企業が立地されると地域の雇用にも寄与します。そして、地元商店街にも活力が与えられると考えています。住宅街で発展した青葉の街だからこそ、駅周辺の活力を上げて、職住近接の新しい街に変化を促したいと取り組んでいます。

青葉区に移り住んで29年。サラリーマンだった私は子育てを妻に任せっきりで、決して良い父親とは言えなかった。3人の子供が地域でお世話になっており、少しでも地元へ恩返しをしたいとの思いで地元小学校のPTA会長を引き受けました。PTA活動を通じて地域の方々との交流が増えた折に、地元自治会長さんなどから「市議員に立候補しないか？」と打診を受け、悩んだ末「一度きりの人生、こんな機会はないかもしれない」と一念発起し、2006年の横浜市議員補欠選挙に立候補したものの結果は落選。選挙で貯金を使い果たし無職の中で、一年後の統一地方選挙に再挑戦して12人の立候補中、3番目の得票数で初当選をしました。以来16年、常に問題意識を持ち、次世代を見据えた政治を続けています。

2023年 自民党マニフェスト



自民党の政策集は、このQRから閲覧できます。



イラスト: Ayaka Chiyoda

山下正人の議会発言をチェック！



市議員16年の間、幅広い施策に取り組み、議会・委員会で様々な質疑答弁を行っています。多くの市民の想いを尊重し、行政にしっかりとつなぐ役割を担ってきました。発言録画を、ぜひご覧ください。

横浜市会インターネット中継 山下正人

LINE 公式アカウント お友達登録してください

